

# 市長の伊賀じまん

## —伊賀の貴重な植物—



▶市指定文化財(天然記念物)のギフチョウの食草として知られるヒメカンアオイ。



伊賀市内には、昔ながらの山林が、原生林に近い状態に残っています。奥地に行かなくても珍しい植物を見つけることができます。

### ◆ヒメカンアオイ

上野公園に自生するヒメカンアオイは、旧制上野中学の生物教師である黒川喬雄さんが初めて発見し、植物標本の基準産地となっている貴重な植物です。カンアオイの仲間は、日照量が少なく湿気の多い土地に生育します。実をアリが運ぶため、分布を拡大する速度が遅く、地域によってさまざまな種類に進化しています。

先日、上野公園の石垣の清掃と併せて行った植生調査では、ヒメカンアオイ 30 株が確認されました。



### ◆イガザサ・フウラン

上野公園には、そのほかにも黒川さんによって

◀上野公園に自生するイガザサ(ルベシベザサの別名)。

発見されたイガザサなどの貴重な植物が自生しています。

鎮守の森といえば神社を囲むように存在する森林のことですが、こういった場所はさまざまな植物が自生し、古くからのありさまを伝えていきます。高倉神社ではアヤマスズというササの一種が自生しており、これは県の天然記念物に指定されています。

また、「上野のお天神さん」にたたずむ大木には、フウランがびっしりと生えています。フウランはラン科の植物でほかの木の上に根を張って生活しています。散歩で立ち寄ったときは、1株2株落ちてこないものかと見上げながら歩いたりもします。

このように、伊賀市内を見渡すとまちの中にたくさんの自然が残っていることがわかります。新種の植物は、毎日約 50 種発見されていると聞いたことがあります。皆さんも身近にある山林をよく見てみてください。意外な発見があるかもしれません。

(伊賀市長 岡本 栄)

## 伊賀の水力発電

市史編さんだより (34)

青山高原の山々に見える風力発電の風車に代表されるように、近年では自然エネルギーが見直され、さまざまな取り組みが行われています。明治・大正の伊賀でも、地域に電気の灯りを点けるため、水力発電所が建設されました。

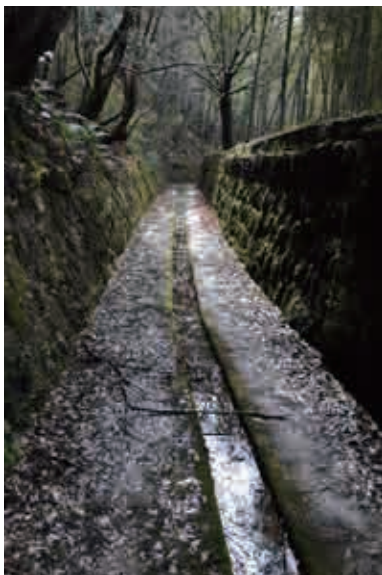
近代伊賀地域を代表する事業家田中善助は、明治27年(1894)頃から伊賀に水力発電所を建設するため、いくつかの計画を進めてきました。さまざまな事情により、実現することができませんでしたが、

構想から約10年、ようやく実現したのが、明治37年に完成した巖倉水力発電所でした。現在の岩倉峡キャンプ場付近から木津川に沿って1kmほど水路を掘り、河川敷に設置した施設で発電するというものでした。

当初は、わずかに出力50kwの発電所でしたが、これにより、上野町・小田村・新居村で電気が灯ることになりました。

その後、田中は、大正7年(1918)に小田町に75kwの火力発電所、大正11年

### ▼巖倉水力発電所の導水路跡



に名張市の比奈知に800kwの水力発電所を建設し、伊賀の電力供給能力を向上させました。

田中の水力発電の成功を機に各地で発電所の計画が立てられました。計画倒れになることが多い中、成功したのが、大正8年馬岡次郎により奥馬野の馬野川に建設された50kwの馬野川水力発電所です。これにより、布引・阿波・山田の各村に電力を供給することができるようになりました。

水力発電は、人々に電気の灯りをもたらすだけでなく、その後の鉄道の電化や各種工場における電力の導入など、生活の向上や産業の発展に大きく貢献しました。

総務課市史編さん係  
☎52・4380 FAX52・4381